



## 2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月4日

上場会社名 株式会社AOKIホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 8214 URL https://www.aoki-hd.co.jp/  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青木 彰宏  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役副社長 (氏名) 田村 春生 (TEL) 045-941-1388  
 四半期報告書提出予定日 2022年2月7日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	102,713	8.5	△1,734	—	△2,511	—	△2,563	—
2021年3月期第3四半期	94,673	△25.5	△12,141	—	△12,857	—	△11,441	—

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 △2,775百万円(—%) 2021年3月期第3四半期 △10,872百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	△30.21	—
2021年3月期第3四半期	△135.00	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	227,184	121,980	53.5
2021年3月期	237,260	125,850	52.9

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 121,469百万円 2021年3月期 125,487百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	10.00	—	0.00	10.00
2022年3月期	—	5.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	156,500	9.3	5,000	—	4,100	—	1,300	—	15.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は添付資料 8 ページ「会計方針の変更」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2022年3月期3Q	87,649,504株	2021年3月期	90,649,504株
2022年3月期3Q	2,746,304株	2021年3月期	5,853,274株
2022年3月期3Q	84,860,387株	2021年3月期3Q	84,748,030株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料 3 ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料)

・四半期決算補足説明資料については、2022年2月4日(金)の決算発表後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症（以下、「同感染症」といいます。）が夏場の増加から9月頃より減少傾向となり、10月には緊急事態宣言等が解除されたこと等により回復基調で推移いたしました。しかしながら、足元では感染力の強い変異株が急増しており、先行きは予断を許さない状況が続いております。

このような環境のなかで、当社グループは同感染症への対策を行いながら下記のような諸施策を実施し同感染症の影響は前年同期と比べ減少した結果、売上高は1,027億13百万円（前年同期比8.5%増）、営業損失は17億34百万円（前年同期は営業損失121億41百万円）、経常損失は25億11百万円（前年同期は経常損失128億57百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は25億63百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失114億41百万円）となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」といいます。）等を第1四半期連結会計期間の期首より適用しております。この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は28億9百万円減少し、営業損失及び経常損失はそれぞれ3億79百万円減少しております。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりです。

#### （ファッション事業）

ファッション事業では、「ライフ&ワークスタイルのAOKI」への進化を目指し、ニューノーマル時代の新しいウェア「パジャマスーツ」を軸としたカジュアル領域を拡大いたしました。具体的には「パジャマスーツ」を前年比約10倍の商品ラインナップに拡大するとともに、初のCM展開などマーケティング施策を強化いたしました。さらに新しいカジュアルシリーズとして「選ぶヨロコビ、着るヨロコビ」をコンセプトに、「JOYカジュアル」を発売いたしました。また、レディース商品では、働く女性に向けて機能性セットアップスーツを中心とした「MeWORK（ミワーク）」プロジェクトの本格的な展開をスタートいたしました。

店舗面では、AOKI及びORIHICAで各1店舗を新規出店した一方、営業効率改善のためAOKIで6店舗及びORIHICAで4店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は621店舗（AOKIとサイズマックス1店舗の複合店をそれぞれ単独店としての管理に変更）（前期末628店舗）となりました。

これらの諸施策の実施及び同感染症の影響がやや減少したこと等により、売上高はほぼ横ばいの530億43百万円（前年同期比0.2%減）、営業損失は販管費の削減等により23億38百万円（前年同期は営業損失48億78百万円）となりました。

#### （アニヴェルセル・ブライダル事業）

アニヴェルセル・ブライダル事業は、1998年の開業からプロデュースさせていただいた結婚式が節目の10万組目を迎え、アニヴェルセル10万組感謝祭「キセキ」を開催し様々な企画を実施いたしました。また、アニヴェルセルカフェ表参道では、昨年度に引き続きイタリア・ローマを代表するラグジュアリーブランド、フェンディ（FENDI）とコラボレーションした「フェンディ カフェ バイ アニヴェルセル（FENDI CAFE by ANNIVERSAIRE）」を期間限定でオープンし、多くのお客様にご来店いただきました。施設面では、契約満了等に伴い東京ベイ店及び神戸店を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は10店舗（前期末12店舗）となりました。

これらの諸施策の実施並びに前年同期は4月7日から5月31日まで全施設において挙式・披露宴を見合わせていたこと及び同感染症の影響がやや減少したこと等により施行組数が大きく増加し、売上高は65億17百万円（前年同期比22.3%増）、営業損失は53百万円（前年同期は営業損失26億3百万円）と増収増益になりました。

#### （エンターテイメント事業）

エンターテイメント事業では、2021年10月1日より全店舗で通常営業を再開したコート・ダジュール他全ての業態で感染対策を徹底し営業を継続してまいりました。快活CLUBは鍵付完全個室の導入や「寺島文庫」オリジナル動画配信等の様々なサービスの提供を通し、ビジネス及び学習での施設利用を促進いたしました。また、毎年ご好評をいただいている「焼きカレーフェア」の開催やPR強化等により、ファミリー層の開拓を行いました。FIT24はAOKIとの併設4店舗を含む積極的な出店を継続し、引き続き順調に推移いたしました。店舗面では、快活CLUBで29店舗及びFIT24で43店舗を新規出店した一方、業態転換及び営業効率改善のため快活CLUBで19店舗及びコート・ダジュールで4店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は708店舗（前期末659店舗）となりました。

これらの諸施策の実施及び同感染症の影響がやや減少したこと等により、売上高は421億91百万円（前年同期比19.6%増）、営業利益は2億5百万円（前年同期は営業損失55億17百万円）と増収増益になりました。

#### （不動産賃貸事業）

不動産賃貸事業では、引き続き閉店店舗等の賃貸を推し進めたこと等により、売上高は32億62百万円（前年同期比12.6%増）、営業利益は6億74百万円（前年同期比15.0%増）となりました。

なお、セグメントごとの収益認識会計基準等の適用に関する内容及び影響等については、8ページ「(会計方針の変更)」及び10ページ「(セグメント情報等) 当第3四半期連結累計期間 3. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載しております。

## (2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、季節的要因等により前連結会計年度末と比べ100億75百万円減少し、2,271億84百万円となりました。

流動資産は、現金及び預金が借入れの返済等により40億87百万円及び売掛金が季節的要因等により45億32百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ92億21百万円減少いたしました。固定資産は、有形固定資産が減価償却等により9億35百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ8億54百万円減少いたしました。

(負債)

流動負債は、買掛金が季節的要因等により24億54百万円及び電子記録債務が26億60百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ48億65百万円減少いたしました。固定負債は、長期借入金が長期借入れ90億円及び約定返済等の結果11億25百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ13億40百万円減少いたしました。

(純資産)

純資産の部は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純損失、収益認識会計基準等の適用及び剰余金の配当の結果38億78百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ38億70百万円減少しております。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績について、10月以降緊急事態宣言等の解除により、ファッション事業では徐々に回復傾向となった一方、その他の事業においては、需要動向などから回復はやや鈍かったものの、全体としては通期の進捗に対して売上高は概ね想定どおり、損失についてはやや改善して推移いたしました。

今後については、新型コロナウイルス感染症の変異株による感染再拡大の影響が懸念されますが、ファッション事業は、第4四半期(特に2月後半から3月)が通期業績に対するウエイトが高いことも考慮し、2021年11月5日に公表した通期業績予想の修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	29,941	25,854
売掛金	10,686	6,153
棚卸資産	20,112	19,862
その他	7,152	6,799
貸倒引当金	△40	△40
流動資産合計	67,852	58,631
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	68,875	69,798
土地	36,138	36,117
その他（純額）	17,755	15,917
有形固定資産合計	122,769	121,833
無形固定資産		
投資その他の資産	5,505	5,587
投資その他の資産		
差入保証金	7,409	7,022
敷金	20,752	20,555
その他	13,011	13,593
貸倒引当金	△40	△40
投資その他の資産合計	41,133	41,132
固定資産合計	169,407	168,553
資産合計	237,260	227,184

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	14,241	11,786
電子記録債務	2,660	—
短期借入金	11,000	6,500
1年内返済予定の長期借入金	5,418	10,627
未払法人税等	679	143
賞与引当金	1,013	716
役員賞与引当金	—	60
その他	12,829	13,141
流動負債合計	47,842	42,976
固定負債		
長期借入金	45,914	44,788
ポイント引当金	320	—
退職給付に係る負債	1,192	1,245
資産除去債務	7,560	7,757
その他	8,580	8,436
固定負債合計	63,567	62,227
負債合計	111,409	105,203
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	27,747	23,870
利益剰余金	81,571	77,693
自己株式	△7,438	△3,489
株主資本合計	125,162	121,356
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	251	47
退職給付に係る調整累計額	72	65
その他の包括利益累計額合計	324	112
新株予約権	363	511
純資産合計	125,850	121,980
負債純資産合計	237,260	227,184

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	94,673	102,713
売上原価	67,238	66,390
売上総利益	27,435	36,323
販売費及び一般管理費	39,576	38,058
営業損失(△)	△12,141	△1,734
営業外収益		
受取利息	50	49
受取配当金	27	26
その他	178	131
営業外収益合計	256	207
営業外費用		
支払利息	267	283
固定資産除却損	405	107
その他	299	593
営業外費用合計	972	984
経常損失(△)	△12,857	△2,511
特別利益		
投資有価証券売却益	4	—
雇用調整助成金等	637	1,643
特別利益合計	642	1,643
特別損失		
減損損失	1,242	636
投資有価証券評価損	919	—
臨時休業等による損失	1,990	1,434
事業構造改善費用	202	—
特別損失合計	4,355	2,070
税金等調整前四半期純損失(△)	△16,569	△2,938
法人税、住民税及び事業税	448	534
法人税等調整額	△5,576	△909
法人税等合計	△5,128	△374
四半期純損失(△)	△11,441	△2,563
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△11,441	△2,563



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純損失(△)	△11,441	△2,563
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	519	△203
退職給付に係る調整額	48	△7
その他の包括利益合計	568	△211
四半期包括利益	△10,872	△2,775
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△10,872	△2,775
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

### (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」といいます。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、ファッション事業における商品・サービスに関するポイント制度について、従来は将来にポイントとの交換に要すると見込まれる費用を引当金として計上する方法によっておりましたが、当該ポイントが重要な権利を顧客に提供する場合、履行義務として識別し、収益の計上を繰り延べる方法に変更しております。また、アニヴェルセル・ブライダル事業の衣装等及びエンターテイメント事業のギフトカード等に係る収益について、従来は総額で収益を認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における役割(本人又は代理人)を判断した結果、純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過措置に従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従来の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、2,809百万円減少し、売上原価は3,150百万円減少し、販売費及び一般管理費は38百万円減少し、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ379百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は889百万円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「固定負債」に表示していた「ポイント引当金」は、第1四半期連結会計期間より、追加の財又はサービスを取得するオプションとして、取引価格の一部を配分し、使用又は期限切れによる失効までは契約負債として「流動負債」の「その他」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過措置に従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過措置に従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」といいます。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過措置に従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書「注記事項(重要な会計上の見積り)」に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りに用いた主要な仮定について重要な変更はありません。

なお、主要な仮定に記載した新型コロナウイルス感染症の影響を受けていない2019年3月期と比べた既存店売上高合計の前提について、ファッション事業及びエンターテイメント事業は第2四半期連結累計期間に修正した仮定から変更はありません。また、アニヴェルセル・ブライダル事業の一組単価の仮定に変更はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ファッ ション事業	アニヴェ ルセル・ブ ライダル事業	エンター テイメント 事業	不動産賃 貸事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	53,132	5,329	35,264	869	94,595	78	94,673	—	94,673
セグメント間の内部 売上高又は振替高	15	0	—	2,029	2,045	—	2,045	△2,045	—
計	53,148	5,329	35,264	2,898	96,640	78	96,719	△2,045	94,673
セグメント利益 又は損失 (△)	△4,878	△2,603	△5,517	586	△12,413	58	△12,354	213	△12,141

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告関連事業です。

2. セグメント利益又は損失の調整額213百万円には、セグメント間取引消去3,247百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△3,033百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「アニヴェルセル・ブライダル事業」及び「エンターテイメント事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖や業態転換が決定し又は損益が継続的にマイナスとなり回収が見込めなくなった営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においてはそれぞれ185百万円、601百万円及び455百万円です。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ファッ ション事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	エンターテ イメント 事業	不動産賃 貸事業	計				
売上高									
ファッション	53,043	—	—	—	53,043	—	53,043	—	53,043
ブライダル	—	6,514	—	—	6,514	—	6,514	—	6,514
複合カフェ	—	—	34,883	—	34,883	—	34,883	—	34,883
カラオケ	—	—	4,930	—	4,930	—	4,930	—	4,930
フィットネス	—	—	2,377	—	2,377	—	2,377	—	2,377
その他	—	—	—	—	—	32	32	—	32
顧客との契約から 生じる収益	53,043	6,514	42,191	—	101,750	32	101,782	—	101,782
その他の収益	—	—	—	930	930	—	930	—	930
外部顧客への売上高	53,043	6,514	42,191	930	102,681	32	102,713	—	102,713
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	3	—	2,331	2,335	—	2,335	△2,335	—
計	53,043	6,517	42,191	3,262	105,016	32	105,048	△2,335	102,713
セグメント利益 又は損失 (△)	△2,338	△53	205	674	△1,511	11	△1,500	△234	△1,734

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告関連事業です。

2. セグメント利益又は損失の調整額△234百万円には、セグメント間取引消去2,689百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,924百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「エンターテイメント事業」及び「不動産賃貸事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖や業態転換が決定し又は損益が継続してマイナスとなり回収が見込めなくなった営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においてはそれぞれ270百万円、363百万円及び1百万円です。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「ファッション事業」の売上高は431百万円増加、セグメント損失は431百万円減少し、「アニヴェルセル・ブライダル事業」の売上高は2,876百万円減少、セグメント損失には影響ありません。また、エンターテイメント事業の売上高は364百万円減少、セグメント利益は51百万円減少しております。